

(3) 設計基本方針 詳細説明

①若者にとって魅力あるサードプレイスとしての価値を重視した設計とすること。

利用者の意見を取り入れる機会を設け、他にはない「ホリバタ」だけの存在意義（若者たちがきっかけに出会える場所、世代や地域を越えてつながり、新しい価値を共に創ることができる場所）が明確なメッセージとして若者たちに伝わる設計とする。

ハード整備は、目的ではなく手段。そこで何ができるのか、若者たちが自分の世界を拓げるきっかけをいかに多く提供できるかにフォーカスしたハード整備の仕掛けが必要であり、この空間を魅力あるサードプレイスだと感じられる設計とする。

若者たちが自由にPCやICT機器を活用できる環境を確保し、自主的な活動を促す機能を整備する。

「ホリバタ」は主に中学生～39歳という幅広い世代が対象のため、それぞれの世代に対するアプローチが必要。

②若者の創造性を育み、双方向の協働が生まれる仕掛けを取り入れた設計とすること。

この空間は、利用者とスタッフ、利用者同士が協働（相互作用）で創っていくことが望まれる。個々の日常使いの場として利用できるだけでなく、利用者が主役となって能動的に活動できる空間を作り、利用者と職員、利用者同士が共有する空間の中で、コミュニケーションが活性化し、様々な形の協働が生まれる仕掛けを取り入れる。（例えば、設えの一部をシンボルとして地域の若者と共同制作する等。）

③床の木質化、木製家具什器類については、可能な限り県産材を活用すること。

木質化については、宇和島市森林環境整備基金の活用を前提とする。（担当：農林課）

④トイレは、バリアフリーに加え、女性に配慮した明るく快適なデザインとすること。

清潔で快適なだけでなく、若者、特に女性が「居心地がよい」と感じる空間にする。個室寸を広くとり、自動開閉洗浄便座、非接触水栓を備え、床・壁・天井（照明）・建具も含めた全面改修とする。

現状のタイル床から乾式床への変更、タイル壁の上にボード壁を貼付、個室寸の拡張に伴う個室仕切り壁とドアの撤去および新設、便座位置変更、一部にベビーガード等を設置する。

1～2階（ホリバタ事業に係る部分）を優先的に実施し、3階（公民館部分）まですべてのトイレを順次改修する。3階トイレは男女スペースを遮断するよう壁を拡張するほか、1～2階同様に設備器具に床・壁も含めた全面改修とする。

⑤ 1階全体の動線をつなげ、可能な限り広がり確保した設計とすること。

給湯室と旧事務所スペースの一部を共用部分とし、建具を撤去しラウンジから自由にアクセスできるようにする。新たな事務所スペースとラウンジの一部は仕切りを設けるが、抜け感のある素材を使用して広がり確保する。

⑥ 利用者の要望・意見を十分に反映した設計とすること。

下記のアンケートやワークショップなどで収集した利用者の意見、先進ユース施設の視察で得たアイデア等、次の要素を可能な限り取り入れた設計とする。

(1) 青少年の主体性を育み、事業への参画が図られるようなコミュニケーションが生まれる接点の工夫と機能

- ・ 日常やイベントで利用できる、家電で簡易な調理が可能な一般家庭用キッチン
- ・ テラス席として活用できるウッドデッキ
- ・ 世代を超えた交流を生み、小規模なイベントなど多様な用途に対応できる空間（ワークショップ、卒業パーティー、クリスマスイベント、ボードゲーム、音楽フェス、キッチンを使った飲食を伴うイベントなど）
- ・ 一定間隔で電源が確保されており、デジタル機器の使用やイベント時に場所の制約がないフロア
- ・ エリアごと、また時間帯に応じて調光可能な照明設備
- ・ ステージとしても活用できる階段状のスペース（高低差のあるエリア）
- ・ 壁面ホワイトボード（投影スクリーンとしても活用）
- ・ 対面カウンター（スタッフと利用者の接点）

(2) 青少年が、新しいチャレンジができる特別な場所であると感じられる内装環境（×・・・「真面目」「定型の」「同質な」、○・・・「自由な」「能動的な」「創造的な」）

- ・ カフェのようなおしゃれで大人っぽい空間
- ・ クリエイティブでかっこいい空間
- ・ ここに来ることがステイタスに感じられる空間
- ・ スタイリッシュとリラックスのちょうどいいバランス
- ・ 個人で利用できる席がある
- ・ 3～4人の少人数で使えるボックス席がある
- ・ 子ども扱いされない場所
- ・ 抜け感のある間仕切り、グリーンを多用した空間
- ・ 木材の活用
- ・ 明るく清潔で快適なトイレ